

## 第40回定期大会開催

### 第40回定期大会 スローガン

1. 加盟単組の団結力で内外からの組織破壊攻撃に抗し、連帯・共闘を組織強化・拡大につなげ、働き方改悪反対! 2025 JR総連春闘を勝利しよう!

1. 崩壊しつつある安全文化と安全哲学を再構築し、すべてのハラスメント一掃! 不当処分反対! 「責任追及から原因究明へ」のたたかいを通じて、組合員が安心して働ける職場を確立しよう!

1. 地域社会の分断を許さず、鉄道による人流と物流の全国ネットワークを守るために、政策要求の実現に向けてたたかおう!

1. 憲法9条改悪反対! 軍備拡大・武器輸出反対! あらゆるテロと一切の戦争政策反対! 原発再稼働・新增設反対! 世界の労働者とともに、安心して暮らせる社会の実現に向けて、「抵抗とヒューマンイズム」を基底に連帯してたたかおう!

#### JR総連新執行部

役職名	氏名	年齢	専・非	所属
執行委員長	山口浩治	60	専 従	J R 東 労 組
執行副委員長	柳 明則	60	専 従	J R 東 労 組
	佐藤英樹	51	専 従	J R 東 労 組
書記長	小林陽介	46	専 従	J R 北海道労組
執行委員	荒木ユイ	46	専 従	J R 北海道労組
	小川 剛	61	非専従	J R 西 労
	池尻和寛	33	専 従	J R 貨物労組
	山田 知	51	専 従	J R 東 労 組
	貝塚 昇	61	非専従	J R 北海道労組
会計監査	野原 茂	60	非専従	J R 東 労 組
	池田 甫	38	非専従	J R 貨物労組

#### 役員退任者

旧役職名	氏名	年齢	専・非	所属
執行副委員長	八幡直文	60	専 従	J R 北海道労組
書記長	熊谷 茂	53	専 従	J R 東 労 組
執行委員	伊藤俊也	44	専 従	J R 貨物労組

JR総連は6月3日、目黒さつきビル会議室において「第40回定期大会」を開催し、むこう一年の方針と新体制を確認しました。「統一要求・山口委員長は挨拶で、2024 JR総連春闘について」「統一要求・きた課題を、加盟8単組の仲間が実践的に克服して現在がある。各単組間でお互いのたたかいを学び、自らに活かし、そして互いを気遣い、激励しあうという労働者としての温もりで満ちたたたかいが、つづいて、激しい闘争に結集する仲間との連帯・共闘を実現してきた。引き続き連帯し、2025春闘では、さらに「連帯・共闘」の輪を広げていきたいと思います」と述べました。さらに平和・人権・民主主義を守るたたかい、安全問題、ローカル線維持・活性化、組織課題など、JR総連が直面する諸課題について述べました(挨拶要旨は2面掲載)。

また、ご来賓として、連合より北野副事務局長、交運労協より住野議長にご出席を賜り、JR総連に対する叱咤激励のご挨拶をいただきました。

その後、執行部より第1号議案「2023年度経過報告」、第2号議案「2023年度決算報告ならびに会計監査報告」、第3号議案「2023年度会計剰余金処分(案)」、第4号議案「2024年度運動方針(案)」、第5号議案「2023年度会計予算(案)」、「統制委員会設置」の提案をおこないました。

質疑では、15名の代議員から発言を受けた後、熊谷書記長より総括答弁をおこない、提案した全ての議案と統制委員会の設置について、満場一致で確認されました。その後、新執行体制を確立し、この一年間のたたかいで培われた「連帯・共闘」の質をさらに高め、JR総連の旗の下、新たな一年に挑んでいくことを確認し、大会は成功裡に終了しました。

# 山口執行委員長挨拶 (要旨)



第40回という区切りの大会。国鉄改革から37年、度重なる謀略的事態や国家権力、反JR総連を標榜する者たちや組織からの妨害、組織破壊攻撃を受けてきたが、「春闘」「平和・人権・民主主義を守るたたかい」「政策実現のたたかい」などを通じて、加盟各単組の団結はますます強固になり、今日を迎えている。JR総連の旗の下に結集し、これからも予想される妨害や組織破壊攻撃と断固としてたたかい抜く意思を強固なものにしていきたい。

## 能登半島地震支援カンパについて

能登半島地震についてである。組合員のご協力によって短期間で多くのカンパが集まった。先日、九州動労同窓会の総会があり、OBの先輩方からもカンパが集まり、総額は823万3847円となった。被災された各単組の関係者と協議し、罹災証明の程度に応じて全額を支援金としてお渡しすることができた。現在、各単組のご協力によりJR総連として連合ボランティアにも取り組んでいるが、これからも組合員の物心両面の支えとなるためにできることを、JR総連の底力を発揮して取り組んでいく。

## 2024 JR総連春闘について

JR総連春闘として「統一要

求・統一闘争」にこだわってきた。ここ数年にわたる総括議論で明確にしてきた課題を、加盟8単組の仲間が実践してきた。現在がある。鉄道5単組のたたかいが5連協に広がり、各単組間でお互いのたたかいを学び、自らに活かし、そして互いを気遣い、激励しあうという労働者としての温もりに満ちたたたかいがつけられている。螺旋的に組織全体の連帯が強化されてきた。2024春闘では、交連労協に結集する全自交労連や全港湾の仲間との連帯・共闘を実現してきた。引き続き全自交労連の仲間とはライドシェア新法の成立阻止に向けたたたかいと連帯し、2025春闘では、さらなる連帯・共闘の輪を広げていきたい。2024春闘の結果は、決して満足できるものではなかった。要求水準や交渉体制について、あらゆる取り組みを通じた組織強化・拡大を背景にしっかりと確立していく。

## 平和・人権・民主主義を守る たたかいについて

昨日、(一財)国鉄・JR労働運動研究会の後援を受けて、前川喜平さんと山口二郎さんの対談をメインとした集会を開催した。お二人から日本が突き進む軍事大国化に対する危機感と、それを下支えする政治の問題点について、お話をいただいた。また、先日、沖縄県玉城知事とお話したが、住民の声を無視した辺野古新基地建設はもとより、自衛隊の機能強化や、現在国会で議論されている「地方自治法改正」についても強い危機感を持っていらした。

日本の戦争体制は日米同盟の強化を基礎にして、日に日に強化され続けているが、それに反対するたたかいは極めて脆弱と言わざるを得ない。国会議論もなく閣議決定でこれまでの日本のスタンスを変え、戦争に突き進む安倍元首相の政治手法を岸田政権は引き継いでいる。労働者・民衆の命を守るために、政権交代は必須である。その実現のために、JR総連は「9条連」などの市民グループと連帯してたたかう。

さらに組合員に現実を直視してもらおうと政治意識を高め、選挙闘争への若手の組織化につなげていくことが必要である。JR総連は、推薦議員懇談会の議員の皆さんとともに、組合員と政治活動との橋渡し

を行い、職場のたたかいを支えていく。

## 安全問題について

安全問題に関しては、徹底して「責任追及から原因究明」という安全哲学を追求していかなければならない。最近気になる事象として、連続した感電事故がある。また、先日新聞にも取り上げられたが、人身事故による運転再開に向けた作業中にもかかわらず、隣接線の運転再開が指示されたという事象もあつた。簡単に原因を連絡体制の不備と片付けてしまう前に、なぜそうなったのかという背景も含めた原因を掘り下げ、再発防止策の策定することの弱さが連続した事故の根底にあると考えている。

さらに、事象が発生させた当事者への責任追及も後を絶たない。とりわけJR東日本における乗務員に対する「教育」に特徴的な現れ、本人の意に沿わないレポートの作成、組合脱退策動をもいえる言動の数々など、パワハラ、不当労働行為といえるような事態が続発している。各単組と連携を取りながら、顧問弁護士や各議員のみなさんとも力を合わせて、法的な側面からも、あらゆるハラスメント、不当労働行為撲滅に向けた取り組みを検討していく。

## 政策実現のたたかいについて

今年3月26日、芸備線再構築協議会の第1回会議が開かれた。参加者を見ると、付帯決議に入れ込んだ「労働者」の出席はなかった。JR総連は、先日、改正地域交通法の付帯決議に「労働者」を入れ込むために尽力していただいた谷田川元衆議院議員のもとを訪れ、現状を報告したところ、早速5月24日の国土交通委員会で斎藤国土交通大臣に質問していただけた。齋藤大臣からは、谷田川議員指摘の住民、労働者は構成員に含まれていないが、今後は住民、労働者の方々も含め、関係者の意見を適切に把握できるように取り組むという答弁を引き出すことができた。国土交通省が住民や、労働者を参加させて、生の声を聞き、芸備線の将来につなげることができるよう、JR総連も各単組、地本のみならず共に取り組んでいく。

鉄道貨物輸送についても、この間の議論

を踏まえてネットワークの維持のためのたたかいつくる。昨年10月、関係閣僚会議により「物流革新緊急パッケージ」が公表された。2030年に34%の輸送力不足が予測される中、モーダルシフトの推進や適正な運賃収受に向けた商慣行の見直しなどが提言されている。JR総連はJR貨物労組、貨物労連の仲間と共に、鉄道貨物輸送のネットワーク維持と併せて、インフラ整備の問題も政策として練り上げ、実現のために取り組んでいく。

## 組織問題について

今大会においてJR東海労に対しての制裁を検討せざるを得なくなった。昨日、JR総連第13回執行委員会を開催し、JR総連からの指示の問題について、この間の3回にわたる連絡文書での指導に対して、JR東海労の実践の結果を議論した。残念ながらJR総連指示が確認された。JR総連がJR東海労に対して文書を通じて行った「指示」は、すべてJR総連執行委員会決定事項、機関決定である。JR総連執行委員会は、第13回執行委員会において「JR東海労中央執行委員会の現実は、今申し上げたJR総連規約に抵触する」と判断した。したがって、JR総連執行委員会として統制委員会の設置の申請を行う。

JR総連の課題は、加盟各単組に結集する組合員のために、JR総連のスケールメリットを最大限に活用し、組合員の直接的な要求を単組の仲間と共に政策として練り上げ、あらゆるルートを通じて実現していくことである。そしてその成果を組織拡大、組織強化につなげていくことである。2024 JR総連春闘がそうであったように、「統一闘争」を実現し、お互いの現実を受け止め、しかしそれを固定化せず、新たな未来に向けて道を切り拓いていくことである。最も大事なことは、相互の信頼関係である。お互いが固い絆で結ばれ、どんなに困難な状況でも決してあきらめることなく、JR総連の旗の下で、あらゆる妨害、敵対、組織破壊行為に立ち向かい、JR総連の組合員でよかったとすべての仲間が実感できる組織とたたかいを創り上げていく。



# 代議員の主な発言 (要旨)

○死亡事故につながる三大労災、同種事象が発生している。JR各社も要員不足の中で、稼ぐことが求められる計画・施策が推進され、安全が後継化される状況。情報共有・検証・議論の場をつくり出し、安全確立のたたかひの強化にむけた指導を要請する。

○9条連運動の強化を地域からめざしていく。  
 ○ローカル線の課題に対して、関係議員との連携、地域と共に闘うために市民団体の結成をめざしてきた。陸羽東線をその突破口に、山形県側・宮城県側それぞれの方々とお会いし、意見交換させていただき「ローカル線と地域の活性化を共にめざしませんか」と呼びかけ、市民団体を立ち上げる賛同をいただいた。私たちが具体的実践をしなければ何も始まらない。地域と共に考え、共に歩む姿勢が大切であることを学ぶことができた。

○一切の戦争政策に反対し、憲法9条を守るために地協9条連の仲間とともに、10月に開催する平和集会の成功にむけ取り組む。  
 ○国政において、鉄道貨物輸送の応援団として尽力してもらうべく、推薦議員の当選をめざす。組合員の職場と生活を守る、全国の鉄道貨物輸送を維持し、その社会的使命を果たすため、JR総連と連携し取り組む。

○九州地協として、毎年8月に長崎で平和研修を開催。若い組合員に対して平和の重要性を訴えかける取り組みとなっている。引き続き九州の地から平和を守る取り組みを若い組合員とともに取り組んでいく。

○地協議長として、産別であるJR総連の意義、重要性を改めて実感している。九州からもJR総連運動をつくり上げることを約束する。

○執行委員長になって1年。リーダーの責任を強く感じる。外に向かっている責任を感じる場面が、毎月発行している通信だ。私が発行者としての全責任を持ち、配布している。記事内容に間違いや公開を同意できていない内容が含まれていると、信頼関係は崩れるからだ。本大会での発言がWeb上にアップされることを心配しなければならぬ事態。JR総連にはしっかりと対応を要請する。

○春闘において、JR総連からタイムリーに各単組の交渉状況の提供。我々の団交状況を考慮していただいた上での各単組の妥結など、交渉の大きな力となった。

○昨今、JR総連組織内の議論が不特定多数に向けて公開される事象が発生している。同事案を懸念しての発言となる。  
 ○春闘要求方針については、JR総連執行部からの討議資料による解説にとどまらず、納得できるまで個別議論にて対話を重ねていただきたい。

○2025春闘にむけても引き続きの連帯強化をお願いする。

○2月人事賃金制度が改定され、全社員平均で約6千円アップ。春闘第1回第2回交渉では、会社は人賃改定で大きな原資がかかっていること、コロナ禍以前には戻っていないことなどを理由にベアゼロ回答。組合員の切実な声を強く訴え再考を求め、第3回交渉では、全社員一律ベア5千円の回答、要求額にはまだ開きはあるが、会社の努力を受け受託。組合員の声が届いたと感じていると同時に、世間の動向や人材確保の大切さに気付いたのではないかと。

○交渉期間中、JR総連からは随時加盟各単組の交渉状況の報告があり、仲間の奮闘を感じた。また各単組や地本・支部などからの概FAX・檄物は、大変励みになった。

○伯備線鉄道貨物輸送存続のたたかひについて、まだ最終的な結論に至らないが、山口委員長にも現地に駆けつけて頂くなど、皆様からご尽力を賜り、廃止ありきの機運を押し戻すことができた。精力的に取り組んだ仲間には、涙ながらにお礼を言われた。貨物労連としても労働組合の存在意義を再確認することができた。

○2月11日に労連を結成。確かに現在JR東海労が進めているたたかひに対し、JR総連及び各単組から異論が提起され、いくつかの事実認識やたたかひの方向性について齟齬が生じている。JS労での二重加盟や、近畿地協における事象、新幹線関西地本のホームページに関することは解決に向けて取り組んでいるが、そうはなっていない。一方的な主張や見解の押し付けだけでは事態は解決しない。

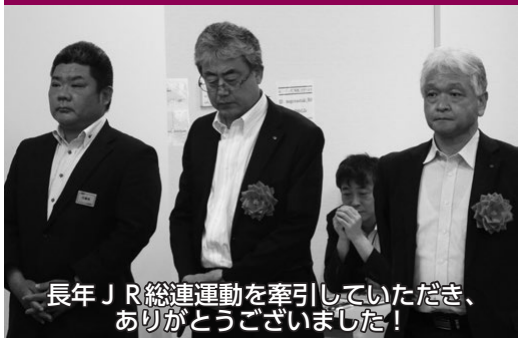
○この間、JR東海労新幹線関西からの攻撃の中、負けずに頑張ったのは、皆さんからの支援・激励があったから。J

○R東海労の面々は口では「JR総連の旗の下に」と言いますが、この間のJR総連や近畿地協に対する異常なまでの誹謗中傷は組織破壊攻撃の何ものでもなく、絶対に許すことはできない。  
 ○本日6月3日、JR東海労新幹線関西地本組合員が近畿地協議長を大阪地裁へ名誉棄損で訴えた。

○春闘の会社回答は多くの組合員に怒り、落胆・失望を与えたが、西労組は回答を大讚美して席上受託。このような会社と西労組の態度に怒りを持った「高開智也君」が回答日翌日、自らの意思でJR西労に加入。JR東海労の皆さんは「JR総連と共に」と言うが、全く逆のことをやっている。近畿地協・津崎議長を大阪地裁に提訴したということならば、JR西労は全面的に津崎さんを支援してたたかう。

○23春闘の教訓を前提に、今春闘ではJR総連統一要求は自らの要求として、組合員にしっかりと訴えることを追求してきた。  
 ○11月の近畿地協定期委員会において、JR東海労内の組織問題がJR東海労の委員の発言と、ビラで一方的に主張され会場が混乱する問題が発生。JR東海労新幹線関西地本はホームページ上で誹謗中傷を繰り返している。JR総連の団結がこれ以上乱されることのないように、JR総連の旗の下、JR総連運動を担い、組織の強化に取り組む。

## 大会表彰者



長年JR総連運動を牽引していただき、ありがとうございました！

- 皆本起良 (JR東海労組)
- 阿部進 (JR貨物労組)
- 細川朗義 (JR貨物労組)

## 議長団



スムーズな議事進行、ありがとうございました！

- 荒関宏 (JR北海道労組)
- 木部宏昭 (システム労)

○1月1日に発生した能登半島地震の被災組合員とその家族に対する支援金カンパにお礼申し上げます。  
 ○本日も震度5強の地震が発生。カンパ金の振り分けが終わっても、まだまだ支援の取り組みは続く。今後も北陸地協は頑張っていく。  
 ○JR総連方針にもとづき「統一要求・統一闘争」・職場闘争と「連帯・共闘」の強化にこだわり、全組合員参加の春闘をつくり出してきた。また、JR総連をはじめ各単組・地協・労連との連携強化を強く意識してきた。さらには、交連労協の各産別とのエール交換もしてきた。JR総連運動の強化・拡大に向け奮闘していく。  
 ○JR東海労は、ここまで機関決定を履行せず、組織混乱・問題拡大を繰り返している状況。組織原則に立ち、内外からの攻撃・弾圧から組織と組合員を守る意味でも「規約規則」にもとづき、早急かつ厳正な対処が必要。  
 ○組織混乱を招いているJR東海労一部役員は断じて許すことはできない。津崎議長を全面的に支援し、団結強化にむけ良心的な組合員と共にたたかひをつくり出していく。  
 ○憲法改悪反対と併せて、労組の弱体化・労働条件の低下を招く、労働法制見直し反対のたたかひもつくり出していかねばならない。JR総連の指導を要請する。

# 熊谷書記長総括答弁 (要旨)



15名の発言があった。今後ともJR総連として単組・労連に足を運び、JR総連運動の前進のための意見や要望など聞いていきたい。

## 2024 JR総連春闘について

物価の高騰、実質賃金の減少の中でいかに組合員と家族の生活を守り抜くのか、春闘の灯を守り抜き、次世代に継承していくのが問われ、めざされた2024 JR総連春闘だった。

JR総連は単組・地協代表者会議でスローガンを確定し、たたかう体制を単組・地協と一体となつて構築してきた。要求は連合・交運労協の3%以上の要求を踏まえ、他産別との「連帯・共闘」、並びに物価上昇を意識して、1万2千円を据えた。要求も、闘争も一体となつてつくってきた。私たちの春闘は押し付けでも、迎合をでもありません。いかなる時でも一体となつてつくり上げてきた。だからこそ単組・地協、労連の仲間たちが励まし合い、一体となつてたたかい抜くことができた。

しかし、産業間、企業間の格差はさらに拡大。JR内も、本州3社と北海道・貨物の格差が拡大している。2024春闘の成果と課題をしっかりと据え、2025 JR総連春闘を勝利するための議論を早期につくり出し、たたかう組織基盤を単組・地協・労連の仲間たちと一体となつて構築していく。

## 安全問題について

河上代議員から多発する事故について、検証議論をする場の要請があった。単組と連携を取りながら進めていく。今JRにおける安全が崩壊しつつあるといつても過言ではない。

先日、我が新幹線職場の車掌から、胸ポケットに入れていた紙の案内表が廃止され、タブレットに変更になるという話を聞いた。理由はコスト削減とのこと。職場で未加入者を含めてアンケートを取ったところ、7割以上の人が現状の紙ベースの案内がいいという回答。日々お客さんを相手に、汗水流している社員が、一番より良いサービスができるのは現行の物だと言っているにも関わらず。

1月に発生した東北新幹線・上野〜大宮間において、架線が垂下し、復旧作業中の作業員が感電するという事故では、職場は6年前から設備が古い、交換すべきだと声を上げていたのに先送りされた。

2月に発生した東北新幹線・郡山駅構内におけるオーバervoltageは、過去に同種事故が発生しているにも関わらず、現場の意見を聞かずに体制を変更し、事故が発生した。共通していることは、現場の声が反映されていないということ。

私たちは国鉄改革以降、風通しの良い職場の確立、そして職場の声が会社全体に反映できる企業風土の確立をめざしたたかつてきた。しかし、今私たちがめざしてきた風通しの良い職場ではなく、上意下達のみゆるる官僚的な職場へ変質しつつある。私たちは危機的現実立ち、安全再確立のたたかいは職場の隅々からつくり出していかなければならぬ。JR総連は、パワハラ、不当労働行為とのたたかいを含めて、単組の皆さんと連携し、安全で働きやすい職場を実現するために、たたかいはつくり出す。

## 政策実現のたたかひについて

ローカル線について発言があった。私たちの原点は地域をいかに守っていくかである。私たちが運行している地域を守つてい

かなければ、職場は守られない。佐々木代議員の発言は、私たちの先陣を切つて、その後続く他の地域のたたかひの模範となるたたかひをつくり出していただいた。切り拓いてきた実践を確認し、自らの地域のたたかひに活かしていこう。

少子高齢化に伴う人口減少社会において、どのように地域交通を構築していくのか大きな課題。地域の声を政策へ高め、地域とともに私たちがとつての地域交通の実現にむけて実践していこう。

政府は「物流革新緊急パッケージ」を発表し、今後10年で鉄道や船舶の輸送量を倍増するとした。しかし、それを担うのはJR貨物労組、JR貨物労連の組合員である。その仲間たちの労働条件が切り捨てられ、政策が一方的に押し付けられるようではいけない。今後ともJR貨物の仲間たちが不利にならないよう連携して取り組んでいく。

また、国鉄債務等処理法に基づき、JR北海道・JR貨物に対する2026年度以降の支援についても、引き続き関係単組と推薦議員懇談会と連携し、要請行動等の取り組みを進める。

## 平和・人権・民主主義を守るたたかひについて

9条連会員の拡大、平和集会や平和研修など具体的なたたかひなくして、平和を守ることとはできないとの発言があった。

先日5月25日にイスラエル大使館前行動があり、いても立ってもいられなくて現地に行つてきた。主催者を代表し鎌田慧さんは「パレスチナの地では、多くの人が虐殺され、罪なき女性や子どもたちが殺されている。この状況で手をこまねいていて、何も声を出さずかきいことだ。私たちが声を上げるしかない。上げ続けるしかない。大人が声を上げる。そして若者たちが声を上げる。未来の子どもたちに、私たちの運動をつなげていく歴史の一環として立ち上がつて声を上げよう」と訴えられた。

私たちは今の現状に手をこまねいていないか。歴史の一環として、後世に私たちのたたかひを残すために、今声をあげなければならぬ。

一方で岸田政権は、「戦争のできる国」、「武器輸出する国」を着々とつくり上げて

いる。また、「地方自治体法改正法案」を成立させようとしている。狙いは沖縄の代執行同様に、地方自治体を国の指示に従わせることができるようにすること。それは、国家によって戦争に駆り出され、多くの罪なき人々を殺した歴史へと回帰するもの。

私たちは憲法9条を堅持し、未来の子供たちが安心して暮らせる社会を実現するために、地域から野党共闘、市民連合と共闘して、国政選挙をはじめとするすべての選挙に勝利して、政権交代を成し遂げよう。

## 組織課題について

JR東海労対して代議員から、「リーダーは外にむかつて責任を持たなければいけない」「ホームページにアップされることを懸念しての発言となつてしまふ」「機関決定は守らなければならぬ」「加盟する組合はJR総連の運動方針に沿つた運動すべき」「JR東海労の行為はJR総連の団結を乱す行為」「問題は解消どころか拡大している」などの指摘があった。この間、東海労本部は指示を受け止めると言いつつも、何も履行していない。また、JR総連近畿地協の津崎議長から、JR東海労新幹線関西地本2名から訴えられたことが明らかになった。加盟組合内で訴訟を行ったことは許されな

い。これはJR総連に対する敵対行為。JR総連に加盟する単組・地協・労連に対する敵対行為であり、組織の総力を上げてたたかひしていくことを確認する。

JR総連の目的は、規約に示しているように「加盟組合および組合員の団結の強化と組織の拡大」である。JR総連はその規約に示されているように、これからもいかなる困難があろうとも、団結を乱す者とはひるむことなく、単組、地協、労連の仲間たちと連携してたたかひしていく。そしてそのたたかひにJR総連に結集する全ての仲間たちが共に決起することを改めて要請し、総括答弁とする。



# 特別講演会「前川喜平氏と山口二郎氏のトークセッション」



6月2日JR総連は、(一財)国鉄・JR労働運動研究会からご後援をいただき、現代教育行政研究会代表・前川喜平氏と法政大学法学部教授・山口二郎氏をお招きし、トークセッションをおこないました。

トークセッションでは、若者が日本や世界の政治・経済、戦争や環境問題などについて考える機会が少なく、なっている現状から、いかに若者に権利意識を持つてもらい、政治に関心を持ってもらうかについて、それぞれの立場から活発に意見が交わされました。

また、JR総連に対して、前川喜平氏は「憲法に保障されている労働者の権利を実現するのが労働組合。労働組合がしっかりしなければ、金と権力を持っている人たちによりリードされてしまう。だから労働者が連帯していく。そして、一人でも多くの組合員を獲得して強くなっていく」というのが大事。

山口二郎氏は「労働組合はやはり、経営側といろんな面での対立をすることは必然的にあると思うが、一人ひとりバラバラでは批判もできない。みんなだまどまどってこころはおかしい。ここは変えたほうがいいという『本物の批判』を大声に、頑張っていたいただきたいと思う」との激励をいただきました。

今後JR総連は有識者と連携を深め、政治や様々な社会問題などについて、アプローチしていきます！



コンビニなどの  
提携ATMの  
引出し手数料  
実質 **0円**

らうきんのキャッシュカードで  
お引出しができる場所はコチラ

**らうきん**  
セブン銀行 ロソン銀行  
net イオン銀行  
ゆうちょ銀行 VIEW ALLTTE

はたらくあなたの、  
いちばんそばに。

「もしも」に備え「もしも」を防ぎ  
「もしも」に向き合う。

公式キャラクター  
ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ  
**こくみん共済〈全労済〉**  
coop

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保険の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

**あなたと家族に安心届けます。保険はおまかせください。**

《取扱商品》

- ▲ 自動車保険・火災保険
- ▲ サークル保険
- ▲ がん保険・医療保険
- ▲ 介護保険
- ▲ JR積立年金
- ▲ すみっこ商店

各種のお問い合わせは  
パソコン・スマホから  
可能ですので、ご利用を  
お待ちしております。

JR総連・各単組賛助団体  
**鉄道ファミリー** 検索

〒141-0031  
東京都品川区西五反田 3-2-13 目黒さつきビル  
TEL 03-3490-3862 F A X 03-3491-7198

## 5連協「2024年沖縄平和研修」

JR総連は5月11～13日、5連協「2024年沖縄平和研修」を開催しました。辺野古テント村では、へり基地反対協の浦島共同代表より辺野古新基地建設の問題について、新基地建設を巡る経過と、沖縄県民は新基地建設「反対」の民意を示し続け、沖縄県が不承認としていた地盤改良工事の設計変更をめぐる国の代執行は、民主主義と地方自治のあり方に関わる問題であること。埋立て計画がある大浦湾は絶滅危惧種約260種をはじめ、多様な生物が暮らしている生物多様性から見た問題など、様々な視点からお話しいただきました。その後、「世界一危険な飛行場」と称される普天間基地の視察し、全面返還合意から28年が経過するも一向に進まない現実を目の当たりにしました。

沖縄戦については、「第32軍司令部壕跡」「ひめゆり平和祈念資料館」「魂魄の塔」「島守の塔」「平和の礎」などを巡り、「糸数アブチラガマ」と「旧海軍司令部壕」では実際に壕に入り、追体験をおこない、多くの

住民が戦争に巻き込まれて亡くなつた歴史と、軍隊は住民を守らないという現実を学んできました。また、



今研修には、これまで沖縄を舞台に平和について取り上げた劇や映画など多くの作品に出演されている、城間やよいさん、知花小百合さん、平良大さんが懇親会に駆けつけていただき、平和について意見交換をおこなっていただきました。

最終日には、玉城デニー沖縄県知事を表敬訪問し、辺野古新基地建設の計画変更承認を巡る国による「代執行」に現れた、地方自治の問題について意見交換をおこないました。



JR総連が沖縄平和研修に取り組んできた経緯と経過を紹介した上で、辺野古新基地建設について「埋立て地盤改良工事を巡って、国が沖縄県に代わって設計変更を承認する『代執行』は、これまで『対等・協力の関係』としてきた地方自治の本旨を蔑ろにする問題であり、これはこの国全体の問題である。私たちも危機感をもって捉えている」と述べました。

玉城知事は、「沖縄県民はこれまで『辺野古新基地建設反対』の意思を示しており、県として県民の声に基づき判断をしてきている。しかし、辺野古新基地建設についての工事の設計変更の『代執行』は、まさに国と地方自治体との関係を『主従関係』とするもので、受け入れられるものではない」と述べられました。

JR総連は、沖縄の仲間をはじめ、平和を希求する仲間との「連帯」を推し拡げ、戦争のない平和で安心して暮らせる社会をめざして、取り組みを進めていきます！

## 5月24日、衆議院・国土交通委員会でJR総連推薦議員懇談会所属の谷田川元衆議院議員が、改正地域交通法に基づく再構築協議会について、質問をおこなう。

### ○谷田川元議員

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を改正する件で、要は、ローカル線の存続問題なんですけれども、その法律の附帯決議の中で、いわゆる再構築協議会、そのメンバーについて、このような附帯決議をなされているんですよ。

「再構築協議会の構成員については、地域の実情に応じて住民、労働者、物流事業者等を含めることとし、多様な意見が反映されるようにすること。また、少数意見等の反映されない意見等を継続的にくみ取るための更なる仕組みづくりについて検討すること。」こうあるんですね。これはもう全会一致で附帯決議が可決されました。ですから、この委員会の総意ですよ。

それで、芸備線の再構築協議会というのが設置されましたけれども、そこに、構成員の中に住民や労働者が含まれているかどうか、大臣に答弁いただきたいと思っています。

### ○斉藤鉄夫国土交通大臣

先ほど谷田川委員からございましたように、この委員会における附帯決議を尊重し、基本方針におきまして、沿線住民、高齢者や障害者を含む地域公共交通の利用者、学識経験者、労働者等の主体が考えられ、地方公共団体や鉄道事業者の意見を聞きつつ、地域の実情を踏まえて選任すること。このように基本方針に書いたところがございます。芸備線再構築協議会の構成員は、この基本方針に基づき、国において沿線自治体の意見を聞いた上で、国のほか、岡山県、広島県、新見市、庄原市、広島市、三次市、JR西日本、岡山・広島両県のバス協会、警察本部、学識経験者としております。

御指摘の住民や労働者といった立場の方は構成員に含まれておりませんが、基本方針においては、利用者のニーズを把握する方法として、公聴会、ヒアリングを行う、又は別途住民説明会を行うなど、地域の実情に応じて適切な方法を選択することとされております。今後の協議に際しましては、住民や労働者の方々も含め、関係者の意見を適切に把握できるよう取り組んでまいりたいと思っております。

### ○谷田川元議員

是非よろしくお願ひします。